# キコニアレター

2016.11.1 発行 No.10

## 約束のケージの保存を考える――

兵庫県教育委員会事務局
参事兼文化財課長
村上 裕道
MURAKAMI Hiromichi

一九五六年にコウノトリが国の特別天然記念物に指定され、東京オリンピックのあった、同64年に保護増殖センターの前身であるコウノトリ飼育場の建設が開始、同65年に第一フライングケージが完成した。その後の世界的な評価を得た、コウノトリ保護増殖の出発点である。

「文化財」の世界では、50年以上を経過した『もの』や『こと』について、保護の対象と考え始め、皆が「文化財」と言えば「文化財」となり、皆が残そうとすれば「文化財」は残る。しかし、何の価値があるかを述べなければ皆の賛同を得にくいことも事実である。

コウノトリ保護活動は50年を超え、「文化財」の分野に足を踏み入れ始めた。『もの』として保護増殖の出発点を示す第一フライングケージ、『こと』として、日本におけるフライングケージや増殖技術の発展を示す、史実的記録を考え始めるときが来たようである。

しかし、これまで文化財の保護活動そのものの証左を文化財指定した前例は見当たらない。また、園舎の文化財指定では、明治時代の重文名古屋市東山植物園温室前室のみで、動物園施設等では無い。「史跡」のように記念碑的場所性に重要性を見いだすのか、「建造物」のようにフライングケージの発展史上の画期的ケージと考えるのか。前例の無い価値を創造し、永く維持するには、各文化財担当課をはじめ、保護活動に参加する「皆」で価値を案出すべきと考える。

次の東京オリンピックまでに結論を得たい。

## コウノトリの個体数 (2016.11.1 時点)

### 飼育

| 施設・拠点名 | オス | メス | 計 |
|---|---|---|---|
| 県立コウノトリの郷公園 | 26 | 29 | 55 |
| 附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター | 17 | 19 | 36 |
| 養父市伊佐拠点 | 1 | 1 | 2 |
| 朝来市三保拠点 | 1 | 1 | 2 |
| 計 | 45 | 50 | 95 |

### 野外

| カテゴリー | オス | メス | 計 |
|---|---|---|---|
| リリース | 13 | 11 | 24 |
| 野外巣立ち | 22 | 44 | 66 |
| 野生 | 0 | 1 | 1 |
| 千葉県野田市・福井県リリース | 5 | 3 | 8 |
| 計 | 40 | 59 | 99 |

28 教Ⓟ2-022A4

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork

# 約束のケージが見てきたもの

兵庫県立コウノトリの郷公園
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター
飼育員
YOSHIZAWA　Takuyoshi
吉沢　拓祥

兵庫県立コウノトリの郷公園附属飼育施設保護増殖センター（以下、センター）には、「約束のケージ」と呼ばれている古いケージがあります。郷公園には大小さまざまな形をしたケージがありますが、正式名称以外に、特別に名前をつけて呼ばれるものはこの「約束のケージ」（写真１）だけです。では、なぜこのような名前がつけられたのでしょうか？ それはコウノトリの保護増殖の歴史に深く関係があります。

写真１：「約束のケージ」（第１フライングケージ）

コウノトリの保護を開始した 1950 年代、日本の最後の生息地であった兵庫県但馬地方でも野生のコウノトリは十数羽が生息するのみになっていました。そうした中で、県、市、地元住民によるコウノトリを保護する活動が始まったのです。住民によりコウノトリの餌となるドジョウを集める「ドジョウ１匹運動」などの給餌活動、禁猟区の設置、営巣木の減少に対する人工巣塔の設置など、コウノトリを守るための活動を行いましたが、野生コウノトリの個体数の減少には歯止めがかかりませんでした。そこで、最後の手段として、コウノトリを捕獲し、人工的に飼育することにしました。そのために最初に建設されたのがこの第１フライングケージです。

「たとえ野生動物を絶滅から守るという目的であったとしても、人間が野生動物に手を出していいのか？」、「収容したところで、果たしてコウノトリを増やすことができるのか？」、「ただコウノトリの墓場を作るだけになるのではないか？」など数々の議論があり、当時の関係者にも様々な葛藤があったことがうかがわれます。そのような状況の中で関係者は「いつか必ず野に帰す」という強い決意を心の中に持ち、野生コウノトリを捕獲し、ケージに収容しました（写真２）。当時の捕獲に携わった人間がコウノトリと約束を結んだ場所、それが「約束のケージ」なのです。

その後、捕獲した野生のコウノトリは「約束のケージ」で卵を産みましたが、いずれも孵化には至らず、当時の飼育員が「暗闇の中を歩いていた」と表現するような苦悩の日々でした。約 25 年という長い試行錯誤を経て 1989 年に飼育下での繁殖が成功しました（写真３）。その後、コウノトリの繁殖は順調に進み、2005 年に世界で初めてコウノトリの放鳥を行うまでになりました。「約束のケージ」は人間と野生動物が約束を結んだ場所であるとともに、その約束を果たすために長年にわたり飼育下繁殖に貢献した、まさに野生復帰の礎になった場所でもあるのです。

試験放鳥から 5 年後の 2010 年、「約束のケージ」は老朽化のため飼育ケージとしての役目を終えました。現在、約束のケージは、センターの奥からコウノトリの野生復帰を静かに見守っています。このケージに携わった者として「もう絶滅はさせない」ことを誓うとともに、このケージを通してコウノトリの保護増殖の歴史、そして人と自然の共生の大切さを多くの方に知っていただけるよう今後も努めてまいります。

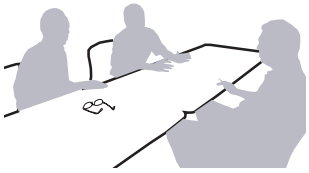
左／写真２：約束のケージでの飼育の様子（1965 年）
右／写真３：郷公園で初繁殖したペア（1989 年）

実りの秋をむかえた
今年もいよいよ後半戦に突入する
田んぼではコンバインが躍動し
そのあとを鳥たちが追いかける
鳥たちはいかな日にこのことを学んだか
かの機械の発明後？
それはそうだ　ではその前は？
草原を駆け回り地表面を荒くれ者のように
かき乱す　猛牛がいたのかもしれない
猛牛と鳥いずれが好みか
院生たちに訊いてみたいものだ

鴻鵠子

# コウノトリとの約束は今も、
## ―飼育今昔物語―

「いつか必ず野に帰す」と約束し、一九六五年に野外のコウノトリを収容した第一フライングケージ（「約束のケージ」）がある県立コウノトリの郷公園附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター（以下、「センター」）、そこで当初から飼育に携わってきた元飼育長松島興治郎さんをお招きし、現在センターで飼育を担当する吉沢飼育員と飼育の仕事の今と昔について語っていただきました。



元飼育長　松島興治郎さん

**三木**　飼育コウノトリに与える餌について教えてください。

**吉沢**　現在、餌はアジを中心に、季節によりドジョウ、ニジマス、フナを与えています。1日1回、オス1羽当たり500g、メス1羽当たり450gを正確に計って与えます。繁殖期間はヒナの食欲が旺盛なため、ヒナ1羽当たり1000g近くの餌を与えます。餌は魚市場から定期的に配達してもらっています。

**松島**　コウノトリの保護増殖を目的に飼育を始めた50年前、「きれいな餌」を与えることが第一の条件でした。「きれいな餌」とはコウノトリが食べて安全な餌という意味です。自然の川や池にいる魚は使えないため、神戸の業者から直接ドジョウを買い付けることにしました。神戸から豊岡までの距離を生きたまま運ばなくてはなりません。そのための容器を工夫しても3時間が限度、列車、トラック、自家用車などいろいろな方法を試しました。トラック便では夜中の2時に餌が運送会社に着き、真っ暗な中、飼育場の池に放したこともありました。豊岡に魚市場ができてから、今の形となりました。

**三木**　繁殖についてはどうでしょうか。

**吉沢**　現在は全国のコウノトリを飼育している施設と連携して計画的に繁殖を進めています（IPPM-OWS）。郷公園では、有精卵を孵卵機へ一時的に預かり、孵化の少し前に親鳥に返す方法をとっています。

**松島**　何も手本となるものがない中、親鳥による自然繁殖、自然育雛から取り組み始めました。しかしうまくいかず、いろいろな工夫を凝らしました。検卵機は自作し、孵卵機は近くの養鶏場で借りたこともありました。個体数が限られているコウノトリでは実験ができないため、他の種類の鳥で実験や練習を行ったこともあります。

**三木**　衛生・医療面ではどうでしょうか。

**吉沢**　「コウノトリに病気を与えない、そしてコウノトリからも病気をもらわない」ことが原則です。具体的には、各ケージへ出入りするたびに手足を消毒します。現在、コウノトリの郷公園には専属の獣医師がいて傷病時の対応や普段の健康管理をしています。

**松島**　衛生的な飼育員の制服などなかったので、不織布を下に着て上に白衣をまとっていました。白衣は毎日洗濯しました。今以上に生きているコウノトリを丁重に扱い、外部の来園者は頭から足の先まで噴霧器で消毒してから入ってもらいました。専属の獣医師はおらず、何人もの獣医師に協力していただいていました。

**三木**　現在と過去の飼育の方法に多くの差があることが分かりました。逆に現在と過去で共通していることはありますか。

**松島**　飼育の原則は今も昔も変わりません。

①飼育員はコウノトリの立場を考えて行動すること、

②コウノトリのいやがることはしないこと、

③飼育員は命を預かっているという認識を持つこと、

ごめんでは済まないということです。飼育を始めた当初は何も分からずコウノトリが次々に亡くなりました。言うに言えない心の葛藤がありました。

**三木**　最後に読者の皆さんにお伝えしたいことをお願いします。

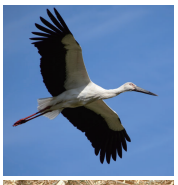
**松島**　コウノトリの飼育については、その技術の進歩から、今まで予想もしなかった異なる世界が開けてくるのではないかと考えています。しかし、いつの時代も命の尊さは変わらないのです。そのことをきちんと受け継いでいくことが大切ではないかと考えています。

人と自然の共生を親子で体感

# 県内外から140名が県公館に集合「まるごと県立コウノトリの郷公園」

１０月８日（土）、郷公園が兵庫県公館へまるごと出張しました。スタッフによる手作りオープニング映像、山岸園長による「私の子ども時代を振り返って」と題したお話、郷公園からのライブ中継、その後、「コウノトリ体感」「飼育員体験」「約束のケージ物語」「園内の生きもの・自然体験」の４つのブースを体験していただきました。昭和４０年に使われたコウノトリ捕獲用ネットの実物展示、水槽に入れた生きたドジョウとつくりものの可愛らしいドジョウなど見応えがありました。最後は山岸園長との交流トークに会場の子どもたちからも次々と質問が飛び出し、あっという間に予定の時間が来てしまいました。

# 「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を応援ください！



兵庫県では、ふるさと兵庫を応援したい・貢献したいという方の善意に基づく「ふるさとひょうご寄附金」を募っています。この寄附金制度には、14 のプロジェクトがあり、その中から選択いただいたプロジェクトに寄附が活用されます。その中の一つ「コウノトリ野生復帰プロジェクト」では、コウノトリ野生復帰グランドデザインに基づき遺伝的多様性の向上・新たな繁殖個体群の創設など、コウノトリの未来へ向けたプロジェクトに寄附金を使わせていただきます。
コウノトリの野生復帰のためにどうかご支援をお願いします。

寄付に関するお問い合わせ先
兵庫県教育委員会事務局　社会教育課
〒650-8567
兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1
TEL 078-362-3781　FAX 078-362-3927
E-mail　syakaikyouikuka@pref.hyogo.lg.jp

コウノトリ野生復帰プロジェクト特設サイト
http://www.hyogo-c.ed.jp/~shabun-bo/shisetsu/kifu.html

# 県立豊岡総合高等学校生徒による「約束のケージ」模型製作プロジェクトが始動

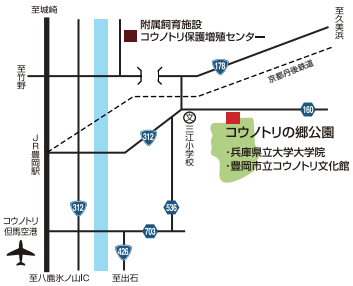
現在のコウノトリの野生復帰の原点とも言える附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター第 1 ケージの維持・保存を進める目的で県立豊岡総合高等学校の協力を得て「約束のケージ」の模型を製作しています。９ 月 ９ 日（金）、生徒のみなさんによりケージの測量及び調査をしていただきました。完成までには約２年間の製作期間が必要です。今後は（公式）郷公園フェイスブック等で情報を発信します。


兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科
**平成29年度入学生募集 B日程**　コウノトリについて学びませんか

対　　象：大学卒業者（見込含む）
社会人・留学生（要件有）
募集期間：H28.**11. 24〜12. 6**
試 験 日：H28.**12. 18（日）**
試験会場：豊岡会場, 神戸会場から選択
申込・問合せ：兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
tel. 0796-34-6079（学務課）
詳しくはWEBで　www.u-hyogo.ac.jp/rrm


## ACCESS！

◎神戸から［約２時間30分］
姫路から［約２時間］
最寄りＩＣ（北近畿豊岡自動車道）
八鹿氷ノ山ＩＣから４０分
◎ＪＲ山陰本線「豊岡駅」から約４．５km
全但バス（コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き）
◎コウノトリ但馬空港から約１２km




## 編集後記

隔週で行っているガイドウォークでは、飼育員によるこぼれ話コーナーが大変好評です。その最後に「飼育員になってよかったと思ったことは何ですか。」と質問することにしています。卵が自分の声に反応して動いた瞬間や、雛がかえったときに感動しますなど、いろいろな答えが返ってきます。しかし、どの飼育員からも特別天然記念物であるコウノトリを飼育しているという責任や誇りが感じられます。飼育員の日々の努力の積み重ねがコウノトリを守り育てているのです。　　自然解説員　三木　芳喜


**兵庫県立コウノトリの郷公園**
Hyogo Park of the Oriental White Stork
兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷 128　tel：0796-23-5666　fax：0796-23-6538

e-mail：kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ：http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
facebookページ：https://www.facebook.com/satokouen/
開園時間：９：００〜１７：００
休 園 日：毎週月曜日（休日に当たるときはその翌日）・１２月28日〜１月２日
※平成29年１月３・４日（木）特別開園日です